

第6回 泉佐野市地域公共交通協議会 議事録

日時：令和7年8月27日（木）14時00分～15:20

場所：レイクアルスター・プラザ・カワサキ

中央図書館 2F 視聴覚室

委 員 名 簿

【敬称略】

《委員》

関係区分	所属・職名	氏名	備考
市職員（特別職）	泉佐野市副市長	真瀬 三智広	会長
学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構和歌山工業高等専門学校環境都市工学科准教授	伊勢 昇	副会長
交通事業者	南海電気鉄道(株) 公共交通室バスグループ事業部課長	松崎 彰宏 (井上 輝)	(代理出席)
	西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部阪奈支社地域共生室長	杉田 精教 (古岩 沙紀)	(代理出席)
	南海ウイングバス(株)取締役営業部長	讚井 聰	
	(一社)大阪タクシー協会常任理事地域交通委員長 (大阪第一交通(株)社長)	芝辻 徹 (小川 和彦)	(代理出席)
	南海ウイングバス(株)労働組合書記長	尾原 健一	
関係行政機関	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(輸送部門)	栗原 岳志	
	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(総務企画部門)	田中 郁代	
	大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長	江藤 良介 (井本 昌彦)	(代理出席)
	大阪府岸和田土木事務所長	木村 克郎 (岡崎 孝一)	(代理出席)
	泉佐野警察署交通課長	榎田 和博 (小井出 信)	(代理出席)
公共的団体	泉佐野商工会議所専務理事	上野 公義	監査
	泉佐野市町会連合会連合会長	花枝 岩男	
	泉佐野市長生会連合会副会長	芝野 久己	
市職員（一般職）	まちの活性課長	宮本 真彰	監査
	まちの活性課地域振興担当参事	竹田 敏宏	
	地域共生推進課長	古谷 規晃 (清水 舞)	(代理出席)
	都市整備部長	高橋 範光	
	道路公園課長	河野 博次	

《オブザーバー》

関係区分	所属・職名	氏名	備考
関係行政機関	国土交通省近畿地方整備局建設部都市整備課長	大利 泰文	
	田尻町事業部都市みどり課長	西 雅広	

協議会概要

1 開会

2 議事

- (1) 泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて
- (2) 新たな交通サービスの導入に向けて

3 その他

4 閉会



議事要旨

1 開会

○事務局（泉佐野市 道路公園課交通対策係 休井係長）の司会により開会（14時00分）

○真瀬副市長（協議会・会長）より開会のあいさつ

「本日は大変お忙しいなか、また、お暑いなかご出席を賜り誠にありがとうございます。平素より本市市政、とりわけ公共交通の確保と充実に向け、多大なるご理解ご協力をいただいておりましたことに、心より感謝申し上げる次第でございます。

本協議会は、令和6年1月に第1回を開催いたしまして、地域における需要に応じた市民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保及び利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要となる事項を取りまとめることとしてございます。

本日の協議会では、まず高齢化が進む中、地域の交通手段をどのように維持し、利便性を高めていくかが重要な課題であり、その施策を示すものとして一昨年度より検討を重ねてまいりました地域公共交通計画の最終案をご提示させていただきたいと存じます。

次に、昨年度に実施いたしましたデマンド交通の実証実験の結果についてご報告させていただき、実証実験を通じて得られた成果や課題を整理し、今後の交通施策を検討するうえでの参考としたいと考えてございます。

結びになりますが、委員様の異動に伴い、本日初めてご参加される方々も多くおられる状況ではありますが、これまでの議論を踏まえつつ、今後の持続可能な公共交通の実現に向けて忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。」

○配布資料の確認（配布資料は以下の7点）

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・配席表
- ・資料1-1 泉佐野市地域公共交通計画（案）
- ・資料1-2 泉佐野市地域公共交通計画 概要版（案）
- ・資料2 新たな交通サービスの導入に向けて
- ・追加資料 前回までの振り返りと今回の協議事項について

2 委員の変更、出席状況について

○事務局より変更となった委員の紹介

- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送部門）、中村洋一委員から栗原岳志委員に変更
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画部門）、釈迦戸久夫委員から田中郁代委員に変更
- ・大阪府岸和田土木事務所長、濱田雄一郎委員から木村克郎委員に変更（代理出席：岡崎孝一氏）

- ・泉佐野警察署交通課長、大仲俊司委員から榎田和博委員に変更
- ・泉佐野市町会連合会連合会長、松浪雅彦委員から花枝岩男委員に変更
- ・泉佐野市まちの活性化課長、今西紀彰委員から宮本真彰委員に変更
- ・泉佐野市まちの活性化課地域振興担当参事、宮本真彰委員から竹田敏宏委員に変更
- ・オブザーバーの国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課長、青山琢人氏から大利泰文氏に変更
- ・オブザーバーの田尻町事業部都市みどり課長、寺島潔氏から西雅広氏に変更

○欠席者と代理出席者は以下のとおり

- ・欠席者
　　オブザーバーの国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課長、大利泰文氏
- ・代理出席者
　　南海電気鉄道(株) 公共交通室バスグループ事業部課長、松崎彰宏委員 代理出席：井上輝氏
　　西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部阪奈支社地域共生室長、杉田精教委員 代理出席：古岩沙紀氏
　　(一社)大阪タクシー協会常任理事地域交通委員長、芝辻徹委員 代理出席：小川和彦氏
　　大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長、江藤良介委員 代理出席：井本昌彦氏
　　大阪府岸和田土木事務所長、木村克郎委員 代理出席：岡崎孝一氏
　　泉佐野警察署交通課長、榎田和博委員 代理出席：小井出信氏
　　泉佐野市地域共生推進課長、古谷規晃委員 代理出席：清水舞氏

○本日の協議会は委員 20 名のうち現在 20 名全員が出席し、会議成立要件の過半数を満たしていることが報告された

○以降、泉佐野市地域公共交通協議会規約第 9 条の規定に基づき、真瀬会長が議事を進行した

3 議事

(1) 泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて

事務局	※委員の変更があるため、これまでの経過について説明 ※引き続き、「資料 1-1 泉佐野市地域公共交通計画（案）、資料 1-2 泉佐野市地域公共交通計画 概要版（案）」を説明（略）
真瀬会長	・泉佐野市地域公共交通計画（案）について、何かご意見等はあるか。
田中委員	・パブリックコメントで意見がなかったが、事務局はどのように捉えているのか。 ・市民は、この計画で良いと思っているのか、単純に興味がないのか、計画を見ることができなかったのか、どこに問題があると分析されているか。
事務局	・問い合わせは 1 件あったが、意見はなかった。 ・市ホームページで周知したが、行き届かなかったのか、関心がなかったのかは分からぬ部分はある。今後の周知方法は検討したいと考えている。
伊勢副会長	・今の質問に関連して、別の計画等でもパブリックコメントをすると思うが、その場合のコメント数も 0 件が多いのか。
事務局	・0 件か、あっても数件で、数多く意見が出ることは稀である。
伊勢副会長	・問い合わせ内容は、どのようなものだったか。
事務局	・「この計画はどういうものなのか」という話であった。
伊勢副会長	・地域公共交通計画の位置付けに、都市計画マスターplanとの連携・整合とある。 地域公共交通計画は、立地適正化計画との連携について書かれことが多いが、今後、立地適正化計画を策定する予定があれば掲載しても良いと思う。どのように考えられているのか。
事務局	・地域公共交通計画策定時に立地適正化計画策定の話はなかったが、今後、立地適正化計画を策定する予定があるため、この計画にも盛り込みたいと考えている。
真瀬会長	・概要版について説明をお願いしたい。
事務局	※概要版の内容について順に説明（略）
真瀬会長	・泉佐野市地域公共交通計画概要版の説明をいただいた。再度、何かご質問、ご意見等はあるか。
田中委員	・運賃助成等の高齢者に関する記載はあるが、将来的な需要者の若者や子育て世代への視点がない。それはなくて良いということか。 ・先細りの需要を如何に増やしていくかが大事と思う。
事務局	・泉佐野市の施策については、先ほどもご説明を差しあげたが、コミュニティバスが通っていない地域の 65 歳以上の方に路線バスのチケット配布などを行っている。 ・特に子育て世代に関する助成は把握していない。 ・今回の計画に盛り込むかどうかはあるが、立地適正化計画のことも含めて確認を取り、施策があれば記載をさせていただく。
田中委員	・他県の、とある市長から「住民数は 10~20 年変わっていないが、乗合バスの乗客がどんどん減っているのは何故か」と聞かれたことがある。

	<ul style="list-style-type: none"> やはり小さいころから乗合バスを利用していないと、大人になっても乗る習慣がなく乗れない人が増えていることが問題になっている。先細りになる中で、今後乗ってくれるような方が乗れる施策があれば良い。
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> 本市は、コミュニティバスを 3 路線。田尻町と共同運行で 1 路線。計 4 路線を無料で運行している。 ・コミュニティバスは全員が同じ条件で乗っていただくよう考えているので、そこに若年層の視点は若干入っている。 ・計画案では、若年層についての記述は特にないということでおろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・仰る通り。
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは年齢を取った記憶がある、そこはどうか。
事務局 (コンサル)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは若者の意見もクロス集計で整理している。 ・また、計画書 P70 「モビリティマネジメントの取組の実施」として、学生に対して公共交通の乗り方を指導する出前講座や、分かりやすいパンフレット作成など、補助ではないが公共交通の利用を促進する取組を記載している。
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それを踏まえて事務局の考え方を、もう一度整理してお話をいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て部門などに確認して、計画書への記載内容を検討させていただく。
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・修正は事務局と市に一任いただきたい。 ・地域公共交通計画案について、修正込みをご承諾いただき成案としてご承認いただきたいが、いかがか。
(委員承認)	
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、修正を加えて成案とさせていただく。

(2) 新たな交通サービスの導入に向けて

事務局	※事務局より「資料 2 新たな交通サービスの導入に向けて」を説明（略）
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・只今の事務局の説明について、何かご質問ご意見等はあるか。
葉原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は参加していないので状況を教えて欲しい。1 点目に導入に当たり地元でどれだけの説明会を実施したのか。 ・2 点目に、実証実験エリアの分母の人数と実際の登録者数はいくらか。 ・3 点目に、バス、タクシーへの影響があったかどうか。アンケート結果や、事務局からバス、タクシー会社へ影響を確認されたのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・泉佐野市全体での説明会を 1 回行った。その他、各町会で回数を重ね、最終的に 10 数回行った。 ・エリア人口が約 1 万人で、登録者数は 186 人である。 ・バス、タクシーへの影響は、特に大きくはなかった。
真瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・3 点のご質問に対する回答は、よろしいか。
葉原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選択が増えたことと導入して外出が増えたならば良いことと思い、186 人中、実際に何人が利用されたのかどうか。また、リピーターがどうかを深く知りたい。

-
- ・もし導入する、実験を継続するのであれば、乗降ポイントを増やす前に繰り返しの説明会や、若い世代にも利用して欲しいならば若い方向けの広報を行うなど施策が必要と思う。
-
- 真瀬会長
- ・実証実験でデマンド交通をいくらにするかの議論があったが、コミュニティバスが無料運行をしているので、無料で実験を行った。これは他の市町村では、稀な事例かと思う。
 - ・アンケートで「いくらまでだったら乘りますか」という質問もしたが、その結果と実証実験の実績データを今後トータル的に考えることと、分母（運行エリアや登録者数）に対する分子（利用実績データ）を確認しつつ、議論を深めていきたいと思う。
-
- 葉原委員
- ・無料のコミュニティバスがライバルなので、今後、無料のバスをどうするかという課題もあるかと思う。
-
- 真瀬会長
- ・コミュニティバスは、平成27年から市内全域を無料運行している。これは当面、無料で続ける予定である。
-
- 葉原委員
- ・無料は危険という話もある。利用者が対価を理解しにくい仕組みなので、どこかの段階で有料化を検討されても良いと思う。
-
- 真瀬会長
- ・ご意見は伺っておく。
 - ・無料運行は市の姿勢であり、有料で150円の時は乗降客数が約7万人、無料にしてから15万人と約2倍になっており、利用者からはご好評をいただいている。
-
- 伊勢副会長
- ・データが3種類ある。P6-9の利用状況はオンデマンド交通利用時のベンダー提供と思うが、P6-7はサンプル数を書いて欲しい。
 - ・P10からは利用者に依頼したアンケートデータは、n=18で問題ない。
 - ・P14から「非利用者」の意向とあるが、調査概要をみると運行エリア在住者に調査しているので、「利用者」も「非利用者」も含まれておりミスリードする。広くアンケートを取ったという解釈で良いか。
-
- 事務局
- ・仰る通り。
-
- 伊勢副会長
- ・評価指標で「高齢者の外出頻度の変化」だけが目標値未達だが、評価指標「今後の利用意向」を見ると、データソースはn=18の利用者調査だが、運行エリアに配布したアンケートの方がサンプル数は多く、386人中96人しか「今後、利用したい」はない。なので、この指標を満たしていないことになる。慎重に集計し直した方が良い。
 - ・P15「さのタクを知っているか」はn=386、「知っていた場合利用してみたかったか（知らなかった方に対しての設問）」で知らなかった方は281人。P16「さのタクを利用したか」の母数は「さのタクを知っている人」で112人となっている。知っている112人と知らなかった281人を足すと393人で全体の386人を超える。これは本回答すべきではない人が回答している可能性があり、データクレンジングの問題と思う。方向性は大きく変わらないと思うが、チェックいただきたい。
-

真瀬会長	・ご指摘があったように、全体的に見直していただいてよろしいか。
事務局	・数値に関しては、確認、精査したいと考えている。
井本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・長滝付近でされた実証実験を、他の所にも広げていく予定か。 ・近隣住民や利用者にアンケートを取っているが、無料なので税金を投入して移動の足を確保している状況であるため、市民全体、エリア外の方からも、このエリアでデマンド交通を導入することを受け入れられているのか把握した方が良い。 ・情報提供として、P20 「YouTube などの SNS による広報」とあるが、熊取町は「ひまわりバスで行く！くまさんぽ」という乗ってみた動画を発信している。 ・P19 「高齢者の外出頻度の変化」が目標まで伸びていないことから、これに乗ると何ができるか、どこに行けるかもセットで発信するというやり方も良いと思う。 ・他市町村では、キャラクターの缶バッジを作り、利用者に配布して口コミで広げるという取組を考えている。「さのタク」のキャラクターで同じような取組はできないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア外からの問い合わせは何件かあり、「うちに来て欲しい」という話もあった。逆に、エリア内から乗車して、エリア外の日根野イオンや泉佐野駅で降りたいという声もいただいた。 ・実験結果を受けて、費用面のこともあるので財政部局と考えながら検討していく。
事務局 (コンサル)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、実証実験のエリアを選択するに当たり、公共交通サービス不便地域を抽出するところから始まった。元々、需要がないから不便地域になっており、サービスを行うのは公共交通の公平性を保つ意味であるが、実際は 100 円を払っていただいても赤字になる。市民がどこまで許容されるかがネックになると思う。 ・実装するのであれば、費用対効果の部分をしっかりと検討する必要がある。
井本委員	・有料、無料という費用については、市の全体の意見も検討していただきたい。
花枝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(委員は上之郷在住) 先ほどの説明で需要が少ないとあったが、家族で日根野イオンに行く習慣づけができた後に、この実証実験があった。需要が少ないのでなく(今回の実証実験のサービスでは)行きたい場所に行けないが正しい。 ・診療所が全て空港連絡道路を挟んだエリア外に固まっているため、自分が行きたい診療所を選択できず、スーパーもほとんどがイオンに行くため使えない。範囲が広がったら、きっと需要は増えると思うので誤解しないで欲しい。
岡崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで利用目的は買い物が一番多くなっているが、高齢者の外出頻度が減った理由は聞いているのか。例えば、車両で行ってまとめ買いをしたために頻度が減った可能性もある。
伊勢副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「非利用者」アンケート(運行エリア在住者調査)で、事前と事後の各交通手段の利用頻度は聞いているか。例えば、オンデマンド交通導入前と導入後のバス、タクシーの利用頻度。

事務局 (コンサル)	・各交通手段の利用頻度を尋ねる設問は設けていないが、「さのタク」を使って行った場所に、これまでどんな交通手段を使って移動していたかは伺っている。
伊勢副会長	・他市の実験では、タクシーやコミュニティバスの利用が統計的に有意に減り、路線バスは、朝夕の運行時間帯以外にオンデマンド交通が走ったので影響がないという結果になった。今回は他の交通手段に影響がなかったそうだが本当なのかと思った。 ・ベンダーが取るデータで OD は分かる。それを見ていただくと行先は結構固まっていることが多いので、定路線型サービスでも需要はカバーできると思う。
小川委員	・タクシー事業者として、利用人数が本当に少なかったため影響はなかった。 ・逆に、どこの自治体もタクシー利用者は割合的に多くはなく、このような実証実験を利用されたことで、実証実験後や運行時間外にドア to ドアの便利さを感じて利用喚起となり、タクシー利用者が増えたら業界としてありがたい。 ・エリア拡大で便利になればタクシーへの影響も出てくると思うので、慎重に検討いただきたい。 ・業界でも、いろいろなところで乗合事業をしているが、PR が一番大切で、自治体が考えて実験をするだけでは上手く行かない。利用しないと 5 年後、10 年後にバスやタクシーが無くなってしまうという説明をしていただきたい。
真瀬会長	・本市の新たな公共交通サービスの導入ということで、今回は 1 つの事例としてデマンド交通の実証実験を報告した。 ・収集したデータをじっくり確認して、今後の公共交通サービスの導入を検討するが、皆様から、アンケートの取扱いや結果を踏まえて次のステップに移る際の注意点を頂戴した。ご意見を踏まえたうえで、新たな公共交通サービスの導入に向けて検討したい。

4 閉会

○事務局の司会により閉会